

フォントの解説

青柳隸書しもフォントは、百パーセント手書きのフォントです。第一水準と第二水準の漢字およびひらがなカタカナと一般的な記号や数字が含まれています。数字とほとんどの記号は青柳衡山フォントからお借りしました。

フォントの元になった手書きの隸書は、書家の青柳衡山先生が揮毫されたものです。青柳衡山先生は、既に楷書行書草書のフォントを発表されていますが、この隸書フォントの元字は、ご自身のホームページにて公開されて、誰かフォントを作成してませんか、と呼びかけられました。作成編集に際しては、先生の元字に對して極力手を加えないようにしましたが、いくつかの点で、多少の編集を加えてあります。

- 一、基本的に文字の大きさを揃えたこと。
- 二、多少横長に揃えたこと。横は巾いっぴいで縦は八割程度としてあります。勿論文字によってかなり変えています。
- 三、傾きの微調整をしたこと。

その他句読点など一部の文字は他の字の部分から作成したものが含まれています。

上記一と二の方針により、縦書きに使用すると中心が多少ずれる場合があります。

このフォントの作成にあたっては、武蔵システムさん (<http://musashi.or.tv/>) の TTEdit 及び OTEdit for Windows を使用しました。大変使いやすいうるなソフトを安価で提供していただきありがとうございます。

フォントの作成作業は、平成二十年四月にスタートし、平成二十一年五月までに第一水準の漢字、その後四年かかって第二水準の全ての作成が終了しました。お忙しい中、素晴らしい文字を提供していただいた青柳衡山先生に感謝いたします。

平成二十五年六月 日